

平成26年10月7日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

平成26年度 第2回 地域経済活性化部会

◆ 10月7日(火)、美しい多摩川フォーラムの平成26年 第2回 地域経済活性化部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：平成26年10月7日(火) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 3F サンマルコ
- ・出席者：顧問、副部会長、運営委員、アドバイザー、会員等

◎ 地域経済活性化部会の概要

1. 開会

2. 副部会長挨拶

3. 講話(40分)

(テーマ)「2020年オリンピックと東京の未来」

(講師) 青山 侑 様 (元東京都副知事、明治大学公共政策大学院教授)

4. 経過報告 ※はビデオ放映

- (1) 美しい多摩川フォーラムの森(青梅)下刈りイベント(6/28)【資料1】
- (2) 多摩川っ子(第7号)発刊(7/9)【資料2】
- (3) 狛江古代カップ第24回「多摩川いかだレース」参加(7/13)※【資料3】
- (4) 多摩川“水”大学講座(7/18、9/19)
- (5) 第7回・子どもカヤック体験教室開催(7/19)※【資料4】
- (6) 「東北・夢の桜街道推進協議会」平成26年度総会開催(7/29)【資料5】
- (7) 多摩川1万人の清掃大会参加(8/3)【資料6】
- (8) 第6回・炭焼き体験と水辺の交流会開催(8/22)※【資料7】
- (9) 第2回・大人のカヤック体験教室開催(8/30)【資料8】
- (10) “多摩川酒蔵街道”のオープンについて(9/5)【資料9】
- (11) 東急百貨店より第5回「ココエコチャリティー」の寄付金贈呈(9/29)【資料10】
- (12) 第7回・美しい多摩川フォトコンテストの募集開始(10/1～12/31)【資料11】
- (13) 第7回・たまりパー50キロ命名記念・RUN&WALK開催(10/11)【資料12】
- (14) 多摩川“水”大学講座(10/17、11/21)
- (15) 第6回・美しい多摩川クリーンキャンペーン開催(11月)【資料13】

(16) 第7回・多摩川子ども環境シンポジウム開催 (12/6) 【資料14】

5. 意見交換

(1) “多摩川酒蔵街道”のオープンについて (9/5) 【資料9】

(2) その他

6. 部会長総括

7. 閉会

1. 開会 (初参加者紹介および資料確認)

(事務局)

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成26年度第2回地域経済活性化部会を始めさせて頂きたいと思います。始めに、皆さまにご報告があります。本日は、急遽ですが細野会長が公務のため欠席となりましたので、フォーラム規約第14条5項により、当部会の副部会長である宮坂事務局長が議事を進行いたします。

さて、本日は、元東京都副知事で、現在は明治大学公共政策大学院教授、また、当フォーラムの顧問でもあります青山侑先生にご講話をいただきますので、皆さんご期待ください。その前に、はじめに宮坂副部会長よりご挨拶をよろしく願います。

2. 副部会長挨拶

(宮坂副部会長)

本日は急なことですが、細野先生に代わり、私が議事進行を務めさせていただきます。本日の部会は、内容が盛り沢山で、時間がかかり切迫した進行になりますが、よろしく願います。私の隣にいらっしゃる講師の先生が、明治大学の青山先生です。本日は大変お忙しい中、部会にお越しいただき誠に有り難うございます。つい先日、木曽の御岳山で大噴火がありましたが、実は青山先生は、東京都副知事の時代に、三宅島大噴火で全島民3,800人の避難を指揮された、危機管理のスペシャリストでございます。また、都市政策に大変深いご造詣があり、関東大震災後に帝都復興計画を唱えた後藤新平についても研究され、面白いのは、「小説 後藤新平」という本を執筆され、“郷 仙太郎”というペンネームで作家としてもご活躍されています。この後、ご講話をいただけるとのことで、私も大変楽しみにしているところです。では事務局にお返しします。

3. 講 話

(事務局)

ただいま、宮坂副部会長からご紹介をいただきました、当フォーラムの顧問でもあります青山侑先生から特別にお話をいただきます。2020年のオリンピックに向けた東京、そして多摩地域の現状認識や問題意識を高めていただけたら有

り難く存じます。前方のスクリーンにパワーポイントの画像が映し出されますので、ご参照ください。それでは、青山先生、よろしくお願いします。

(青山顧問)

皆さんこんにちは。青山でございます。私は、当フォーラムのインサイダーでございます。創設時に声を掛けられ、参加させていただいております。その割に余り役に立っていないのですが、この地域経済活性化部会に沢山の方がお集まりになり、活発に活動されていることを心強く思います。

今日は、「2020年オリンピックと東京の未来」というテーマをいただきました。表紙に関東平野の地図がありますが、ここに多摩もあり、多摩川も流れています。この地図に人工的な線を3本描きました。一番外側は圏央道、その内側は外環道、一番内側は首都高中央環状線です。東京都はこれらを3環状道路と言っていますが、外環道は、東名、中央高速、関越、常盤などの高速道路をさばくために作られました。首都高中央環状線は、首都高速道路の渋滞を緩和するために比較的新しく計画された道路で、来年春に完成します。これで、首都高の渋滞は無くなると考えられます。問題は、一番外側の圏央道で、直径約100キロあります。多摩を貫く形になっていると同時に、東京湾から反時計回りに木更津・成田・筑波・東松山・青梅・八王子・厚木と、東京大都市圏の主要な都市を結んでいます。これは、交通をさばくというよりも、都市間を結ぶ道路として計画され、すでに7割が完成しています。東京大都市圏が機能する上では余り意識されていませんが、圏央道は非常に大事な道路で、これが完成すれば、東京大都市圏の機能が発揮されるようになります。

次に世界3大都市圏を比較してみましよう。国際比較をする場合、東京・ニューヨーク・ロンドンと、いずれも成熟した社会の大都市ということで比較されます。東京をシンガポールや香港と比較する人もいますが、金融機能や相続税がゼロということで部分的に比較する分にはいいのですが、地方都市を抱える成熟社会都市の場合、東京・ニューヨーク・ロンドンで比較するのが普通です。シンガポール・香港・上海など、伸び盛りの都市と比較しても意味がありません。東京都市圏は、1都3県で直径200キロ、ニューヨーク都市圏はマンハッタンだけではなくニュージャージーやペンシルバニアも含んで直径300キロ、ロンドン都市圏はグリーンベルトの外側までで直径160キロになります。GRP（地域のGDP）は、ニューヨークやロンドンに比べ、東京大都市圏は圧倒的に生産力が高く、これはニューヨークやロンドンも認めています。圏央道大都市圏が非常に重要であるということが分かると思います。特に、多摩の都市圏が大きな生産力を持っています。これは古い数字ですが、首都圏の自治体が「パーソントリップ調査」を行いました。ある日、どこかの駅で電車に乗ると、そこでカードを渡

され、「降りた駅の改札に渡してください」といった、お金を掛けた大規模な調査を10年に1回実施します。この表は、1988年～1998年の10年間の推移を表わしていますが、都市間移動の伸び率を示しています。まだ20世紀の話ですが、98年に出た結果を10年前と比べると、多摩から区部に移動する線が伸びておらず、むしろ多摩から埼玉、神奈川への移動の方が伸びています。つまり、情報化時代になると、人々の移動は、大量の伝票処理をするために都心の本社に通う時代は終わり、都市間の複雑な移動が増えるという理論が、20世紀の半ば頃から日米欧共通に議論されてきました。これが東京大都市圏では、98年には既に表れていたのです。情報化時代では、伝票処理は機械でやってしまうので、都心への移動は増えませんが、都市間の複雑な移動（物・人・アイデアの移動）は増えるのです。今日の勉強会もそうですが、特に異業種異分野の人と意見交換をすることによって、それがビジネスチャンスに結び付くということが、50年前から議論されていたのです。中心部への移動から、都市間の複雑な移動が目立つ時代への移行が、すでに20世紀から始まっていたのです。これが高度情報化時代です。東京大都市圏では、圏央道の建設がすでに7割終了していますので、都市計画が順調に推移しているということです。これは地味で票に結び付かないので、政治家も訴えないのですが、実は努力してきたのです。JR武蔵野線は、かつて貨物線だったのですが、今日では人を運搬するのに非常に重要な線となっています。このような、都市間移動をするという発想は、日本では古くからあり、1923年に、後藤新平が関東大震災後の復興計画として環7まで作ることを大正14年に決定しました。その4年後には、震災復興で人口が一気に郊外化したので、1927年（昭和2年）の計画に環6・環7・環8を追加しました。しかし、この復興計画の予算が1/10に削られたため、計画倒れになりました。昭和通り・靖国通り・明治通り・晴海通りは作りましたが、環状道路については内堀通りと外堀通り以外はほとんど作れませんでした。戦後、私たちの世代がコツコツ作ってきました。本来なら、環7・環8は幅員40mだったのですが、25mで作ったので混雑するようになりました。山手通りは計画では80mだったのに、占領軍に「そんなもの作る必要ない」と言われ、米軍基地を繋ぐ国道16号を作りました。東京オリンピックでようやく環7と首都高速道路に着手しました。その後、圏央道沿いの都市が発展したため、中央高速・関越・東名を、本来の目的とはズレた形で首都高速と繋げてしまったため、首都高速が混雑するようになってしまいました。その渋滞を緩和するために作られたのが中央環状線で、来年春に完成します。東京の都市計画は、理論的なのか本能的なのか分かりませんが、情報化時代に合うように、都市間の移動を重視して作られました。世界でもこういう都市はありません。結果として東京は、道路だけではなく、新幹線などの鉄道が発達し、空港は便利で、テロや犯罪も少なく、ホームレスが少な

くてスラムが小さい、利点の多い都市となりました。しかし一方で、「良いところは東京ばかりで、東京に一極集中しているから、地方に公共投資をばらまけ」ということが「地方創生」等で行われていますが、東京一極集中は言い過ぎのような気がします。「いったい何が集中しているのか」と私は言いたいのですが、それを証明するように、国勢調査によると、政令指定都市20市中13市で人口が増加しています。東京一極集中ではないのです。中核市でも、43市中19市で人口が増加しています。つまり、合わせて63市中32市で人口が増え続けているので、東京一極集中ではなく、「全国的に都市化が進行している」と言わないと、政策を間違えてしまいます。圏央道関連で見ると、元気が良いのは多摩だけではなく、政令市：横浜、川崎、さいたま、千葉、相模原、中核市：宇都宮、柏、川越で人口が増加しており、関東平野の経済を支えています。

今から6年後に東京オリンピックが開催されますが、1964年のオリンピックのように、環7や首都高を作る、新幹線を作るといった時代とは違い、巨大インフラを作ることはありません。成熟社会として都市整備をする必要がありますが、ニューヨークやロンドン、パリに比べ、東京圏には何が欠けているかと言うと、スポーツ、エンターテイメント、音楽、画廊、文化芸術など、人々が生活を楽しむ成熟社会特有の要素が欠けていることが分かります。我々は、高いお金を出して、ニューヨークやロンドンにミュージカルやコンサートを鑑賞しに行きます。東京でもそれらを楽しめて良いはずですが、オリンピックはスポーツだけではなく、エンターテイメントでもあります。そもそもオリンピックのルールとして、開催の3年前から文化イベントを全国展開することになっていて、この部会でも大いに関係することだと思いますが、多摩でもオリンピックがらみの文化イベントを3年前からやらなければならないことになっています。当然、政府から予算が流れてくると思います。2012年ロンドンオリンピックでも、全国でイベントを展開し、盛り上がりました。オリンピックはスポーツだけだと思わないでください。1964年東京オリンピックの時、アメリカやヨーロッパは鉄道を駄目にしていきましたが、日本は批判を受けながらも新幹線ネットワークに力を入れました。東京都心の立体交差も、ニューヨークやロンドンにはありません。つまり、1964年東京オリンピックは、世界の大都市を超えた時代なのです。それがその後50年間の日本の経済成長を支えました。しかし、今度のオリンピックはそういうものを作る時代ではないのです。成熟社会として、人々の生活の質を向上させるオリンピックで、前回よりも目標が単一ではなく、人々の価値観も多様なので、かなり難しいオリンピックになると思います。東京は、1923年の関東大震災を機に主要道路を作り、1945年の東京大空襲は占領下で計画倒れし、1964年の東京オリンピックでは立体交差を作りました。この先はどうか。1995年の東京プランでは、羽田空港の第4滑走路、首都圏3環状

道路の整備が盛り込まれ、実現までに15年～20年かかりました。3環状道路については、石原元都知事が予算を付け続けました。私はこの事業が石原さんの最大の功績だと思っています。我々は、人々が今関心あることではなく、これから関心あることについて、今度のオリンピックでやらなければなりません。つまり、都市の交流機能が上昇するようなことを考えなければなりません。言い換えると、「魅力」ということです。東京は、ニューヨークやロンドンと比べ、ものづくりが強みですが、観光はまだです。今、訪日観光客は、円安だから来ているのであって、円高になっても訪れたい、東京の本質的な魅力をアピールする必要があります。20世紀、私たちは効率的な都市を作ってきました。これからは快適で魅力的な都市を作る必要があります。2020年東京オリンピックの会場で、現在もめているのが、バレーボール会場です。バレーボールとバスケットボールの恒久的な会場を隣り合わせに作るのではなく、埼玉の多目的アリーナを使おうという意見もあるのですが、埼玉の愛想が良くないので、横浜にしようという案もあります。ロンドンの場合は、ストラットフォードの駅に競技場を作りましたが、オリンピック開催前と後ではどうでしょう。非常に良くなったことが分かります。ロンドンでは、移民が多く、低所得者ばかりでスラム化した東部地域にオリンピック会場を持って来ることで、「世界平和と差別の解消」をアピールしました。今後、オリンピック開催で社会はどう変わるでしょうか。世界の考え方の変化を象徴するのは「ことば」でして、日本の行政では「都市計画部」「都市計画課」だったのが、最近では「まちづくり政策部」など、ひらがな表記に変わってきました。何故でしょう。都市計画は都市計画だけで独り歩きするのではなく、経済を含めて総合的に考えることが、たまたま日本とアメリカと欧米で同時並行的に起きています。とはいえ、「インフラも気になる」という方もいらっしゃると思います。羽田空港へのアクセス案が色々出ていますが、後出しジャンケンで急浮上したのは、JR東日本が提案する、東京駅→羽田空港駅です。何故なら、大井までは線路があり、後は羽田空港の下を掘るだけだからです。オリンピックまでには間に合わないかもしれませんが、この種のことは、オリンピックを機会に動き出すものなので、何の問題もありません。羽田空港は、「世界で一番都心に近い空港」として評価されていますが、アクセスできる鉄道は2種類（京急とモノレール）しかありません。成田は3本（京急、京成、JR）あります。羽田の滑走路は4本あるのに鉄道は2本しかなく、成田は滑走路が2本しかないのに鉄道は3本もあります。こういった言い方をしないと、国会議員はなかなか東京都に予算を付けてくれないので、こういったアピールをしています。多摩の市町村で時々話をするのですが、ロープウェイを作ったらどうでしょうか。ロンドンオリンピックでも、テムズ川の上に作られました。ロープウェイなら、コンクリートを余り使う必要がありませんし、鉄塔は2本あれば良く、駅は簡単で良

いし、後は箱を買うだけです。バルセロナのオリンピックでもロープウェイが作られました。しかし、この話を日本でしても余り盛り上がりません。

東京都心の町並は非常に良くなりました。都心なのに、これだけ多くの緑があります。しかし都心は人口過密です。都心から見ると、多摩は理想郷です。圏央道沿いの都市は、未だに人口が増えています。多摩はこういった長所を活かしていくと良いと思いますし、オリンピックで競技が来なくても、練習場や合宿所、キャンプは必要になるので、多摩はそういったものを取りに行けばいいと思います。オリンピック競技者だけではなく、そこに住んでいる人が気持ちの良い街にすることが重要です。多摩川フォーラムでは、そういうことを追及すれば良いと思います。

最後に、都市農業について申し上げます。これは農水省の統計ですが、市街化区域とその周辺の農業は、全農業の4%を占めています。つまり、全国の農地の内、都市農業は4%を占めている訳です。販売金額では、8%を占めています。都市農業は、これだけ生産性が高いのです。我々は、「都市農業基本法を作ってください」という運動を国会にしています。ようやく今度の臨時国会で出ますから、ぜひニュースを見ていてください。不十分な基本法ではありますが、小さく産んで大きく育てたいと思っています。何故今かと言うと、1月から相続税が上がり、放っておくとさらに農地が減ってしまいます。農業をやりたい人は大勢います。オリンピックでは、東京で作ったものを食べていただければ良いのです。海外で日本食は、フランス料理やイタリア料理をはるかに凌ぎ、人気です。都市計画でも、商業・工業・住宅という3分割は成立しなくなっています。農業も、6次産業化が進んでいますし、特に都市農業は運搬経費が掛からないので非常に有利です。結論を言いますと、圏央道というインフラが育ち、都市農業を多摩の売りにすることを提言して私の話を終わります。有り難うございました。

(事務局)

青山先生、有り難うございました。せっかくの機会ですので、ご質問のある方は挙手をお願いします。

(石黒様)

「縦板に水」と言いますか、とても流暢な講話で分かりやすかったです。有り難うございました。私もまちづくりの地域研究に携わっており、15年前には大学院で勉強した経験もあります。その時、「都市計画」という教科書をチェックしたのですが、今日ご指摘いただいたような、「総合的に捉える」という視点の教科書は皆無でした。そういった内容のテキストが少ないので、ぜひテキスト作成にご尽力いただければ嬉しいです。

(青山顧問)

おっしゃる通りです。私も東大の都市工学課で授業をやっていましたが、教科書には自分のプリントを使っていました。東大には大勢の都市工学の先生がいらっしゃるのに、何故私が行くのか疑問に思いましたが、その当時は、都市講座論を教える先生がいなかったのです。今でもいません。環境や自然保護や市民活動、反対運動に関する先生しかいませんでした。ちなみに、東京都庁の都市整備局には、東大の先生を長年使っていません。ただし、生徒は採用しています。都庁入庁後、しっかりと教育しますので、問題ありません。そもそも日本の都市計画法は、昭和43年に制定されており、すでに時代遅れなのです。その頃は、都市が市街地をどんどん拡大させ、住宅不足、工場用地不足を解消している時代でした。市街化区域内に空き地や農地があると、「10年以内に市街化する」と都市計画法の中で明記しています。しかし40年経った今でも、空き地や農地があり、全く時代遅れの都市計画法になっています。そしてそれは、ヨーロッパで否定された Land Useで、「ここは住宅、ここは商業、ここは工業」と、線引きをする法律になっています。今は Mix Useの時代で、人々がまちづくりに参加する時代なので、都市計画法を改正しなければなりません。私は10年間、都市計画法改正の委員会に参加していましたが、容積率や建ぺい率は財産的な要素なので、政府もあきらめていました。ではどうするかということになり、2000年に、東京都が政府に要請して都市再生法を作ってもらいました。せめて都心は都市計画法から外すという法律です。ですから、今の都市計画法は、田舎のための都市計画法なのです。都市再生法も制定から15年経ち、来年改正される時にはガラッと変わります。都市再生法の地域も増えてきています。今、東京23区全てを入れるように議論しています。では、多摩はどうでしょうか。多摩のための都市計画法はありません。「多摩都市計画法」を作っても良いのです。成熟社会の都市計画を考える、根本理念の違う都市計画を考えなければなりません。ただ、政治的には容易ではない案件です。なので、全国は放っておいて、「多摩都市計画法」を独自に作る方が良いのではないかと思います。

(事務局)

他にご質問のある方はいらっしゃいますか。ないようでしたら、青山先生に今一度拍手をお願いします。青山先生、有り難うございました。

4. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。今年度の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料の表紙に時系列でお示ししております。それでは、はじめに(3)番、(5)

番、(8)番をビデオにまとめておりますので、前方のスクリーンをご覧ください。

— ビデオ放映 —

経過報告を続けます。

(6) 「東北・夢の桜街道推進協議会」平成26年度総会開催(7/29)【資料5】

- ・ 【資料5】をご覧ください。本年7月29日、平成26年度総会が秋田県横手市で開催され、平成26年度は、当フォーラムより同協議会へ2,000,000円の拠出金が承認されました。平成26年度の活動内容を1ページにまとめてありますので、ご参照ください。なお、次ページのインバウンドに関する資料の通り、今年2月～3月にかけて、観光庁による台湾の春の訪日キャンペーンについて、「東北・夢の桜街道」が採用され、成功を収めましたので、来年春も再度実施する計画にあると、観光庁から伺っております。

(10) “多摩川酒蔵街道”のオープンについて(9/5)【資料9】

- ・ 【資料9】をご覧ください。こちらは後ほど意見交換でご説明させていただきます。

(11) 東急百貨店より第5回「ココエコチャリティー」の寄付金贈呈(9/29)【資料10】

- ・ 【資料10】をご覧ください。平成26年9月29日、株式会社東急百貨店本社にて、今年も東急百貨店のココエコチャリティー・イベントによる売上金の一部707,778円が、当フォーラムに寄付金として贈呈されました。因みに、贈呈式には、ダニエル・カール副会長にご出席いただきました。第5回目となる今回の寄付金額は、昨年の556,772円を大きく上回り、過去最高となりました。なお、いただいた寄付金は、「多摩川一斉水質調査」などの多摩川環境保全活動に役立てていきます。

経過報告は以上です。宮坂副部長、よろしくお願いいたします。

(宮坂副部長)

事務局からの経過報告で、何かご質問などございますか。ないようですので、意見交換に進めます。

4. 意見交換(副部長)

(宮坂副部長)

はじめに事務局の方から説明してください。

(1) “多摩川酒蔵街道”のオープンについて (9/5) 【資料9】

(事務局)

【資料9】をご覧ください。この9月5日に、美しい多摩川フォーラムでは、“美しい多摩づくり”の秋のシンボル事業として、西多摩地域に点在する5つの酒蔵（小澤酒造、田村酒造場、石川酒造、中村酒造、野崎酒造）や温泉を紹介するとともに、紅葉の秋を満喫しながら巡る旅を、“多摩川酒蔵街道”と名付け、15～20社近いマスコミに对外公表いたしました。その結果、6社で記事を掲載していただき、その中から日本経済新聞朝刊、産経新聞、観光経済新聞の記事を資料に添付しております。

“多摩川酒蔵街道”のカラーチラシ両面刷りの裏面には、Suicaの広告が掲載されていますが、これはJR東日本八王子支社さんとの連携により、八王子支社さん管轄の53駅において、9月5日以降、このチラシが備え付けられています。また、大多摩観光連盟さんとも連携をし、大多摩四季報の中開き一面に“多摩川酒蔵街道”を掲載していただきました。この四季報も、チラシと共に53駅に備え付けられています。さらに、はとバスさんとクラブツーリズムさんでは、すでに“多摩川酒蔵街道”のバスツアーが販売されています。これらのバスツアーには、必ず“多摩川酒蔵街道”のオリジナルロゴを掲載するようにしています。

本件につきまして、“多摩川酒蔵街道”ワーキング・グループ座長で、小澤酒造取締役社長の小澤運営委員より一言お願いいたします。

(小澤座長)

“多摩川酒蔵街道”については、恐らく宮坂さんが言い出しっぺではないかと思うのですが、西多摩に酒蔵が5蔵もあるというのは凄いことで、これをアピールしない手は無いということで、発案をしていただきました。先ほど、講師の先生もおっしゃっていましたが、日本の食文化のひとつとして、日本酒は大変注目を浴びていると同時に、酒蔵は文化遺産に近い存在でもあります。日本の食文化の一つである日本酒を味わいながら、酒蔵で日本の文化に触れることができるのです。それが西多摩に存在する面白さを、東京の価値、多摩地区の価値としてPRしていければと思います。

(事務局)

有り難うございました。続きまして、本日初めて部会に出席されました、同ワーキング・グループ委員である、田村酒造場の田村様に一言お願いいたします。

(田村様)

最近、酒蔵を活用した地域観光が注目されています。例えば、北海道では、ワイン醸造所も含めたスタンプラリーをやっています。また、日本の良いものを海外に売り込む「クール・ジャパン」の中にも日本酒が含まれています。我々は今まで、皆さん

に「日本酒を飲んでいただく」ことだけをやってきましたが、観光という切り口で私どもを利用していただき、地域の役に立てれば嬉しく思います。我々も、無い知恵を絞って頑張りたいと思いますので、ご指導をよろしくお願いいたします。

(宮坂副部長)

“多摩川酒蔵街道”については、約1年の検討を経て、このたびの発表にこぎつきました。お配りした資料をご覧になって、ご意見やご質問がありましたら挙手をお願いします。

(石黒様)

先日、大多摩観光連盟の栗原専務とお話をさせていただきましたが、観光庁では、「着地型観光」を推進しているようで、“多摩川酒蔵街道”もその一つではないかと思えます。“多摩川酒蔵街道”がキーとなり、今後いろいろな展開が期待できますが、これからのプランニングは多摩川フォーラムがやっていくのか、酒蔵がやっていくのか、それとも“多摩川酒蔵街道”推進協議会などを立ち上げるのか、今後の動きをお聞かせください。

(宮坂副部長)

事務局的な立場で申し上げますと、今回の企画は、通常の旅行商品を作るというのではなく、あくまでも、西多摩の資源をベースにして、「酒蔵街道」というプラットフォーム、あるいはインフラを多摩川フォーラムが提供し、その上で各旅行会社や交通機関、または酒蔵さん自身がアイデアを出し、みんなで連携してやっていく形になるので、多摩川フォーラムそのものが商品を作っていくということではありません。多摩川フォーラムが良いものを提供すれば、色々な方が色々な知恵を絞って、更に付加価値が高まっていきますので、そういったことを通じて交流が深まり、交流人口の増加に繋がれば、地域の活性化に繋がると考えております。

他にご質問、ご意見などはございますか。

(銀座かずや 古関様)

先ほど、オリンピックの説明がありましたが、私どもは、オリンピックの中心地に1坪の小さな店を開いています。私は昨年まで青梅に住んでおりましたが、父が秋田県の横手市出身なので、東北・夢の桜街道とも繋がりがあありますが、父が青梅に来た際には必ず、小澤酒造さんのお酒を利き酒し、また、海外から知人が来た時も、小澤酒造さんのお酒を召し上がったいただき、多摩川の清流を楽しんでいただいた後、お食事や美術館の見学に連れて行きます。皆さんは口をそろえて「東京にこんな素敵な場所があるの？」と驚かれます。私はもともと横浜に住んでいたもので、店がオリ

ピックの中心地に位置している利点を活かして、青梅や多摩川の素晴らしさを全国の人たち、海外の人たちに広めたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

(宮坂副部長)

有り難うございました。2020年東京オリンピックの話が出ましたが、我々も当然それを視野に入れており、外国の方々にも多摩川酒蔵街道を楽しんでもらいたいと思っています。つい先日、外務省、国税庁、日本酒造組合中央会の共催で、各国の大使ご夫妻が小澤酒造さんを訪れ、日本酒を召し上がり、酒造りを興味深く見学されたと新聞に掲載されていました。

(リビ多摩 石河様)

海外戦略について、具体的にどうお考えなのか教えてください。この酒蔵街道は、観光資源の目玉になると思いますし、多摩をアピールする強いツールになると思います。

(宮坂副部長)

高尾山については、都心から京王線1本でアクセスでき、かねてから賑わっているのですが、それに比べて御岳山は少し出遅れているように感じます。高尾の観光客を少しでも御岳に引き込めるよう、頑張っていきます。

(澤田アドバイザー)

酒蔵のひとつ、あきる野市の中村酒造さんの近くに、近藤醸造(株)というお醤油屋さんがあります。旅行会社さんには、ぜひこのお醤油屋さんもツアーに組み込んでいただきたいと思います。私はガイドという立場で、お客さんに紹介すると、非常に喜んでもらえます。ここは東京で唯一の醸造メーカーですので、こういう事も紹介していただければ有り難いです。また、御岳山の話が出ましたが、今、「芸者ナイト」をやっており、私は世話役をしております。今月は14日に開催しますが、11月と12月も開催しますので、外国人が優先ですが、皆さんもぜひ遊びに来てください。

(宮坂副部長)

有り難うございました。色々な意見が出ましたが、今後の部会、運営委員会で議論させていただきます。

5. 総括・閉会 (副部長)

(宮坂副部長)

今日は駆け足ではありましたが、お忙しい中、足をお運びいただき、有り難うござ

いました。また、細野先生に会えることを期待して来られたかたには申し訳ありませんでした。今後の方向性ですが、10月14日に教育文化・環境清流合同部会を開催し、11月には運営委員会もごぞいます。その中で今日いただいたご意見を議論させていただきたいと思います。それでは、平成26年度第2回地域経済活性化部会を終了します。有り難うございました。

以 上